

気候変動ダウンスケーリング国際ワークショップ（2017.10.2-4）の開催報告

統合的気候モデル高度化研究プログラム領域テーマC「統合的気候変動予測」は、気候変動予測に関する力学的ダウンスケーリングの意義、応用分野への拡大、アジアとの連携を目的に、国際ワークショップ（International Workshop on Climate Downscaling Studies）を2017年10月2日（月）～4日（水）につくば国際会議場において開催した。ワークショップには海外から26名（11カ国）、日本から60名、合わせて86名の参加があった。

ワークショップでは、下記の5つのトピックスについて、3件の基調講演を含む28件の口頭発表と14件のポスター発表が行われた。

- ・世界の気候変化と地域気候変化の関連
- ・極端気象現象とダウンスケーリング
- ・アジア諸国でのダウンスケーリング
- ・地域気候変化に関する学際的研究
- ・統合地域ダウンスケーリング計画アジア版（CORDEX-Asia）経験的統計的ダウンスケーリング

とりまとめでは、全球気候モデル（GCM）は静力学モデルから非静力学モデルへのグレイゾーンに入りつつあること、地域気候モデル（RCM）は非静力学モデルでかつ対流パラメタリゼーションを使用しない高解像度での適用がなされつつあり、さらに解像度が上がると境界層スキームのグレイゾーンに入ること、数km以下の空間スケールでは経験的統計的ダウンスケーリングが必要であること、気候モデラーとデータユーザである影響評価研究者との対話が以前にも増して重要となっているとの議論がなされた。さらに、モデラーからはこれから様々な検討課題が出てくること、アジアのデータユーザの側からは適応研究へ向けてのデータは待ったなしでありモデラーの側の検討の時間は長く許されていないという事情などが紹介された。

なお、本国際ワークショップに際し、統合プログラム領域テーマCでは下記の14名の研究者を招聘した。

Hyun-Suk Kang 韓国 National Institute of Meteorological Sciences

Huang-Hsiung Hsu 台湾 Academia Sinica

Ke-Sheng Cheng 台湾 National Taiwan University

Cheng-Ta Chen 台湾 National Taiwan Normal University

Gemma Teresa Narisma フィリピン Manila Observatory
Ngo Duc Thanh ベトナム Hanoi University of Science
Jerasorn Santisirisomboon タイ Ramkhamhaeng University
金丸秀樹 タイ Food and Agriculture Organization of the United Nations
Fredolin Tangang マレーシア National University of Malaysia
Jayanarayanan Sanjay インド Indian Institute of Tropical Meteorology
Roy Rasmussen 米国 National Center for Atmospheric Research
Liqiang Sun 米国 North Carolina Institute for Climate Studies
Daniel Mitchell 英国 University of Bristol
Douglas Maraun オーストリア Wegener Center for Climate and Global Change



ダウンスケーリング国際ワークショップの参加者@つくば国際会議場